

# 宇和島市子ども読書活動推進計画

— 第1次 —



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



令和6年2月  
宇和島市教育委員会

# 目 次

第1章 計画策定の趣旨	2
1. 計画策定の背景	
2. 計画の目標	
(1) 基本理念	
(2) 目標	
(3) 計画の期間	
第2章 子どもの読書の現状と課題	4
1. 子どもの読書習慣について	
2. 学校以外の図書館の利用について	
3. 電子図書館の利用について	
4. 読書が好きかどうかについて	
5. もっと読書が好きになるためにどうすれば良いか	
第3章 子どもの読書活動推進のための取組	10
1. 家庭における取組	
2. 学校における取組	
3. 地域における取組	
第4章 推進するための環境整備	14
1. 市立図書館の充実	
2. 学校図書館の充実	
3. 市立図書館、学校等との連携・協力	
第5章 子どもの読書活動の普及・啓発	18
{資料編}	19
○子ども読書アンケートの結果	
○宇和島市立図書館の状況	
○子どもの読書活動の推進に関する法律	

# 第1章 計画策定の趣旨

## 1. 計画策定の背景

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、国は平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、積極的に環境整備を推進することとしました。

愛媛県においても、平成16年に「愛媛県子ども読書活動推進計画」を策定し、現在は第四次計画で推進を図っています。

宇和島市では、令和4年に策定した「宇和島市教育振興基本計画」における「生涯学習推進計画」に基づき、読書環境の充実を図るとともに、市民の自主的な読書活動を推進しています。

子どもの読書を取り巻く環境については、近年目まぐるしく変化しています。Society5.0の時代を生きる子どもたちのために、GIGAスクール構想のもと、児童生徒一人一台端末が令和3年から整備されています。また、来館しなくても、いつでもどこでも本を借りて読むことができる宇和島市電子図書館を同年導入しました。新たな読書形態として、読書好きな子どもたちを中心に利用が進んでいます。

一方で、子どもの読書離れは進んでおり、まったく本を読まない子どもや、読書の習慣が身に付いていない子どもが多くなっている現実があります。週に読書する頻度、量ともに年齢が上がるほど低下する傾向は顕著であり、また当市においては県平均に比べても読書活動が低迷している現状が見取れます。

スマートフォンやタブレット等の普及により、インターネットやSNSなど情報が氾濫する時代の中、本を通じて得た知識を、想像力によって「知恵」に転換して生きる力を高めていくことは大変重要であり、自分のことだけでなく、人やふるさとを愛し、思いやりを持つ人間に成長することにもつながります。

今回、当市のすべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うための取組と、そのための環境整備を推進するため、「宇和島市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

子どもたちが将来、「なりたい自分」になるために、読書がその手助けとなることを期待しています。

## 2. 計画の目標

### (1) 基本理念

子どもが読書を通じて「生きる力」を身につけるため、自ら本を読むようになるための取組と環境整備を進めます。

### (2) 目標

発達段階ごとの取組を推進し読書習慣を形成することで、感性を磨き創造力を豊かにするとともに、読書が好きという子どもを増やすことを目指します。

具体的な指標については、次表のとおり項目ごとに数値目標を示しています。

#### 【指標】

	指 標		現状 (基準)	令和 9 年度 (2027 年度) 目標値	愛媛県 (H30 年調査)
1	不読率（1ヶ月に全く本を読まない割合）	小下学年	6.6%	5.0%	4.9%
		小上学年	8.9%	7.0%	1.7%
		中学生	18.9%	10.0%	6.7%
2	週に1回以上読書をする割合	小下学年	66.3%	75.0%	77.7%
		小上学年	61.8%	70.0%	74.8%
		中学生	43.2%	50.0%	49.4%
3	1ヶ月あたりの平均読書冊数	小下学年	8.3冊	10冊	9.5冊
		小上学年	7.2冊	10冊	12.8冊
		中学生	3.8冊	5冊	4.6冊
4	電子図書館を利用したことがある割合	小下学年	20.2%	30.0%	
		小上学年	22.1%	30.0%	
		中学生	6.6%	15.0%	
5	読書が好きという割合	小下学年	84.8%	90.0%	84.7%
		小上学年	77.2%	85.0%	87.3%
		中学生	71.0%	80.0%	83.0%

### (3) 計画の期間

この計画の期間は、令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5年間とします。

## 第2章 子どもの読書の現状と課題

宇和島市子ども読書活動推進計画の策定にあたり、市立の全小中学校の全児童・生徒を対象に、アンケート調査を実施しました。

(令和5年7月実施)

小学校回答率	2,441人／2,873人・28校	85.0%
中学校回答率	1,161人／1,324人・6校	87.7%

《前提条件》

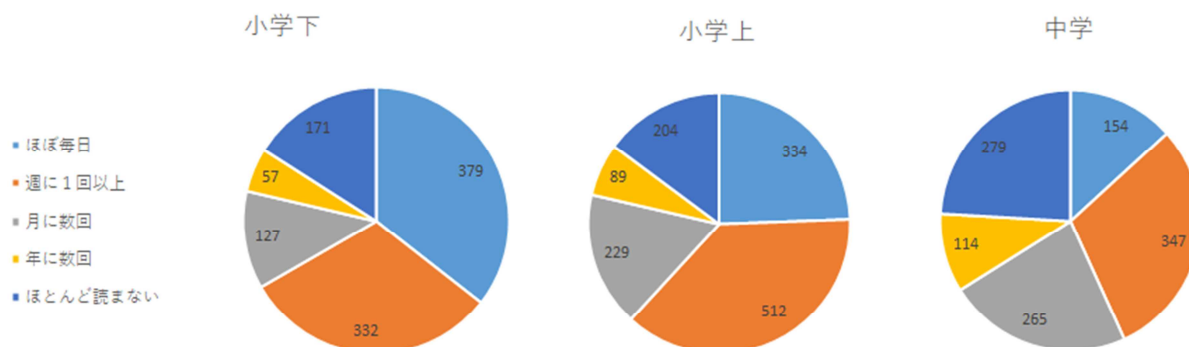
読書には、学校図書室、市立図書館及び市電子図書館の本、書店で購入した本すべてを含む。ただし、マンガは含まない。また、学校活動の中で読む本は含まない。

その結果、以下のとおり、宇和島市の子どもたちにおける読書に関する現状と課題がわかりました。

### 1. 子どもの読書習慣について

(1) 家でどのくらい本を読むか聞いてみました。

単位（人）



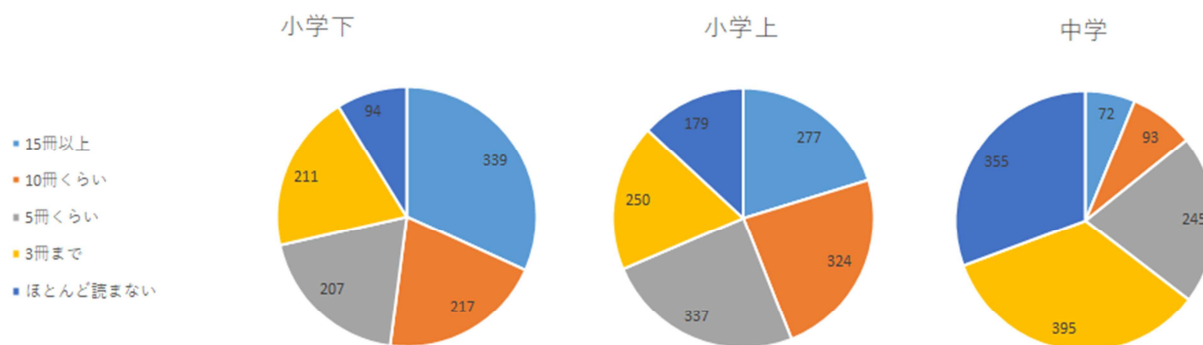
週に1回以上本を読む割合	小学校下学年	小学校上学年	中学生
宇和島市	66.3%	61.8%	43.2%
愛媛県 (H30 調査)	77.7%	74.8%	49.4%

本を「ほぼ毎日」または「週に1回以上」読む子どもが、小学校下学年で66.3%でした。上学年になると、そのうち「ほぼ毎日」の割合が下がってきます。中学生になると、その割合はさらに下がり、全体でも43.2%になりました。

その結果は、小学校・中学校いずれにおいても愛媛県の平均（平成30年調査）を下回っており、宇和島市の子どもたちの読書習慣が定着していないことがわかります。

(2) 1ヶ月に何冊くらい本を読むか聞いてみました。

単位（人）



1ヶ月あたりの平均読書冊数	小学校下学年	小学校上学年	中学生
宇和島市	8.3冊	7.2冊	3.8冊
愛媛県 (H30調査)	9.5冊	12.8冊	4.6冊

同様に、本を読む量（1ヶ月あたりの平均読書冊数）についても、小学校上学年に上がるにつれて減り、中学生では小学校下学年の約半分になっています。

(3) 不読率について

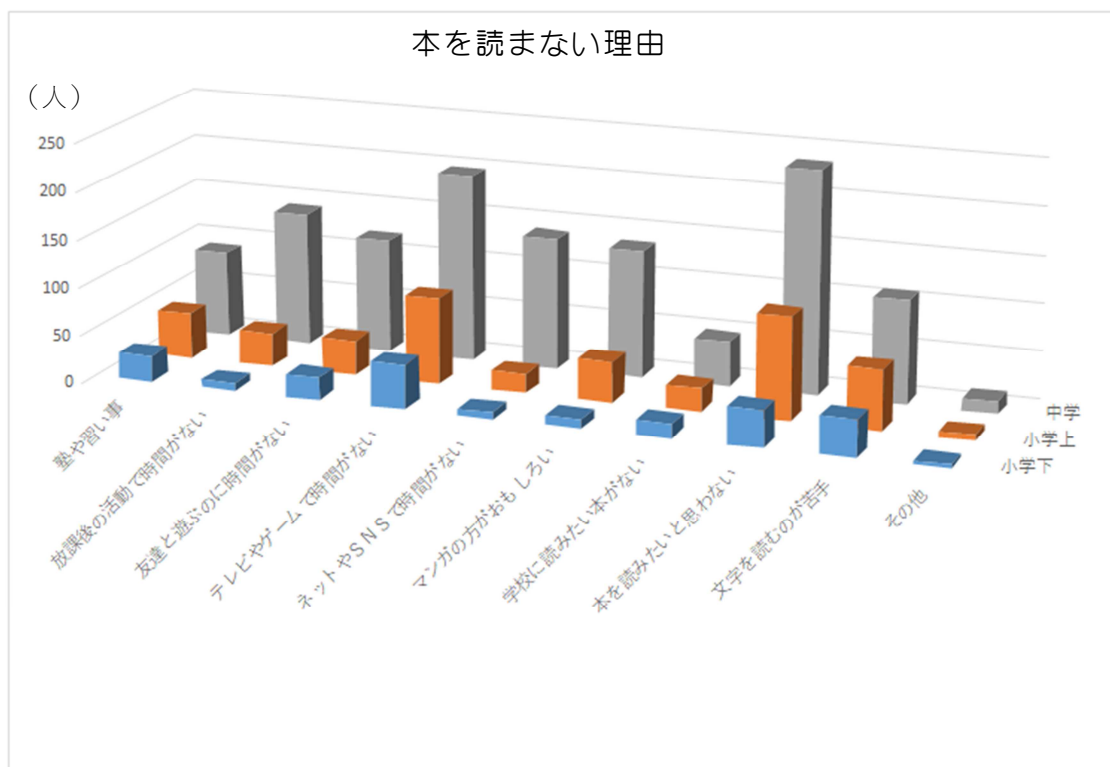
不読率とは「1ヶ月に1冊も本を読まなかった子どもの割合」ですが、市調査においては、(1)(2)ともに「ほとんど読まない」と回答した子どもの割合を不読率として比較しました。設問の都合上、県調査（1ヶ月に全く本を読まなかった）と若干条件は異なりますが、概ねどの学年でも不読率が県平均より高いことがうかがえ、特に小学校上学年と中学生において顕著と言えます。

不読率の割合	小学校下学年	小学校上学年	中学生
宇和島市	6.6%	8.9%	18.9%
愛媛県 (H30調査)	4.9%	1.7%	6.7%

(4) 本を読まない理由について

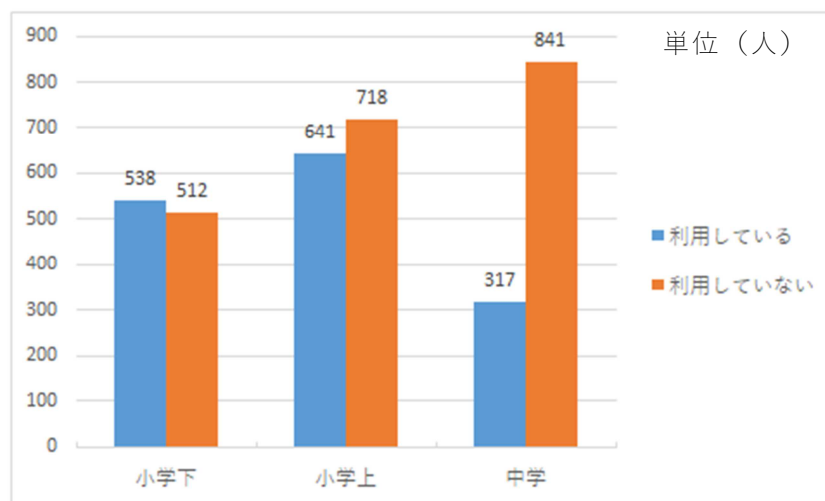
(1)及び(2)でともに「ほとんど読まない」と答えた子どもに、その理由を聞いてみました。その結果、次のグラフでわかるとおり、「テレビを見たりゲームをしていて時間がないから」と「本を読みたいと思わないから」という理由がどの学年でも多く、また学年を追うごとに増加する傾向にあることがわかりました。

また、中学生においては「放課後の活動で時間がないから」という理由も多くありました。



## 2. 学校以外の図書館の利用について

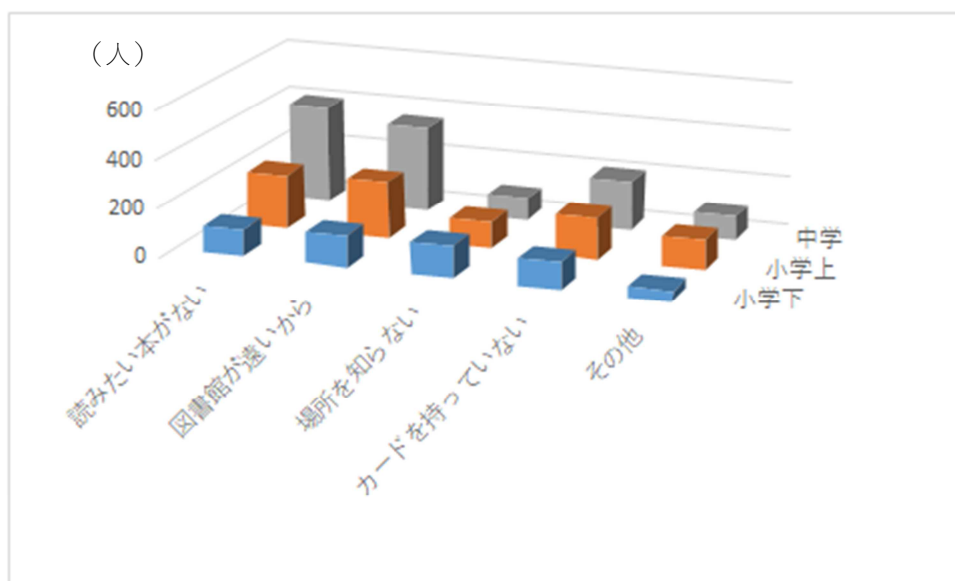
(1) 市立図書館は利用しているか聞いてみました。



市立図書館を利用する子どもは、小学校下学年では半数以上だったのが、上学年になれば逆転して半数以下に、中学生になればさらに差は開き、3人に1人以下になります。

小学校下学年の間は、保護者と一緒に来館することが多いことも、利用が多い一因と考えることができます。

(2) 「利用していない」と答えた子どもに、その理由を聞いてみました。

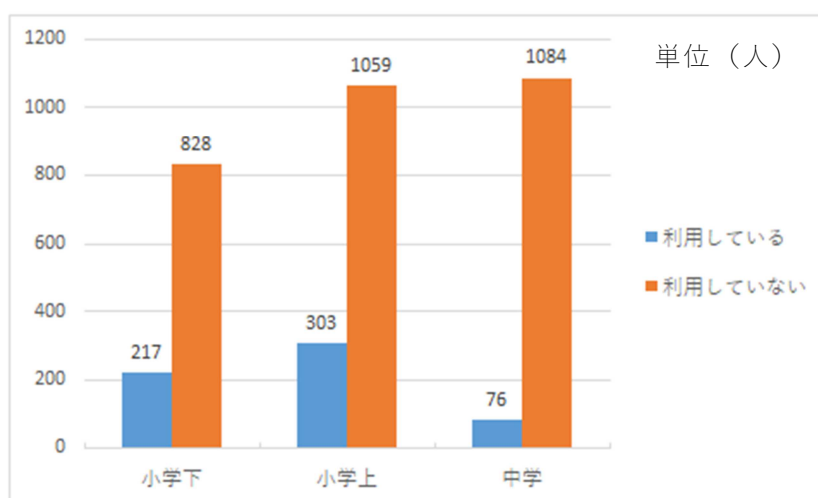


市立図書館を利用しない理由としては、「読みたい本が無い」と「図書館が遠い」という理由が学年を追って多いことが顕著ですが、中学生は保護者と来館することが少ないことから、距離的な要因があることも考えられます。

また、利用者カードを持っていないという子どもが一定数あることは課題と言えます。

### 3. 電子図書館の利用について

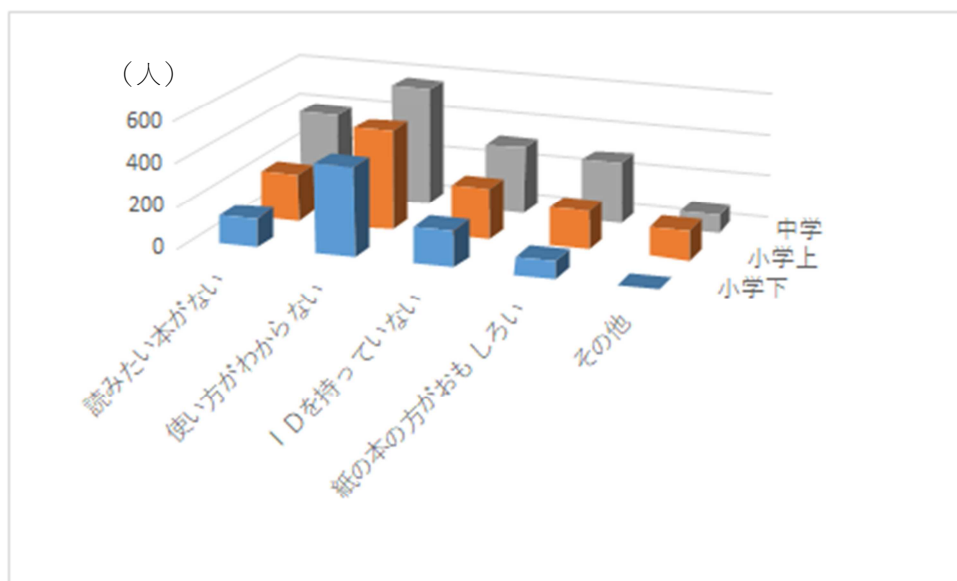
(1) 宇和島市電子図書館を利用しているか聞いてみました。



R3年度から導入し、県下でも比較的貸出件数の多い当市の電子図書館ですが、小学生では5人に1人、中学生では10人に1人以下と、まだまだ利用されていない状況であることがわかります。



(2) 「利用していない」と答えた子どもに、その理由を聞いてみました。

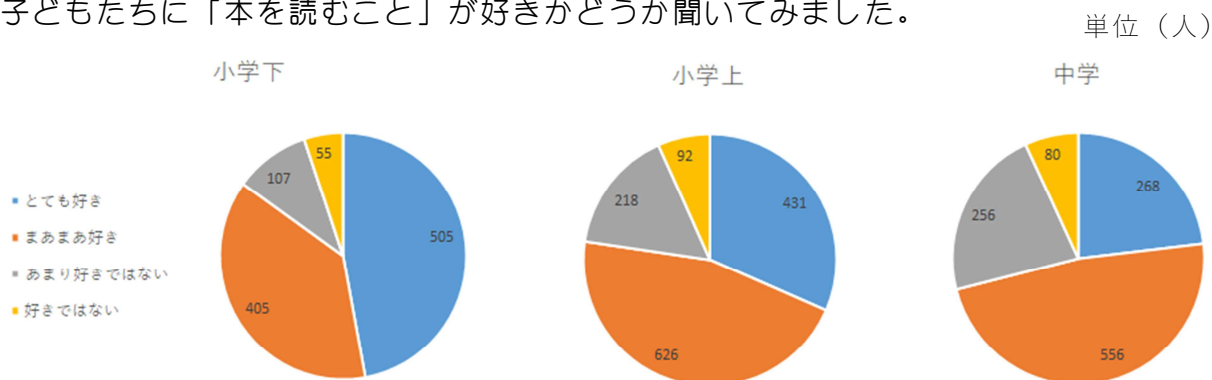


全学年を通じて、「使い方がわからない」子どもが多いことから、周知啓発が足りていないことがうかがえます。

また、「IDを持っていない」イコール「利用者カードを持っていない」ことから、小学校入学時に図書館から希望者に贈呈する利用者カードがまだまだ全員に行き渡っていない現状がわかります。

#### 4. 読書が好きかどうかについて

子どもたちに「本を読むこと」が好きかどうか聞いてみました。

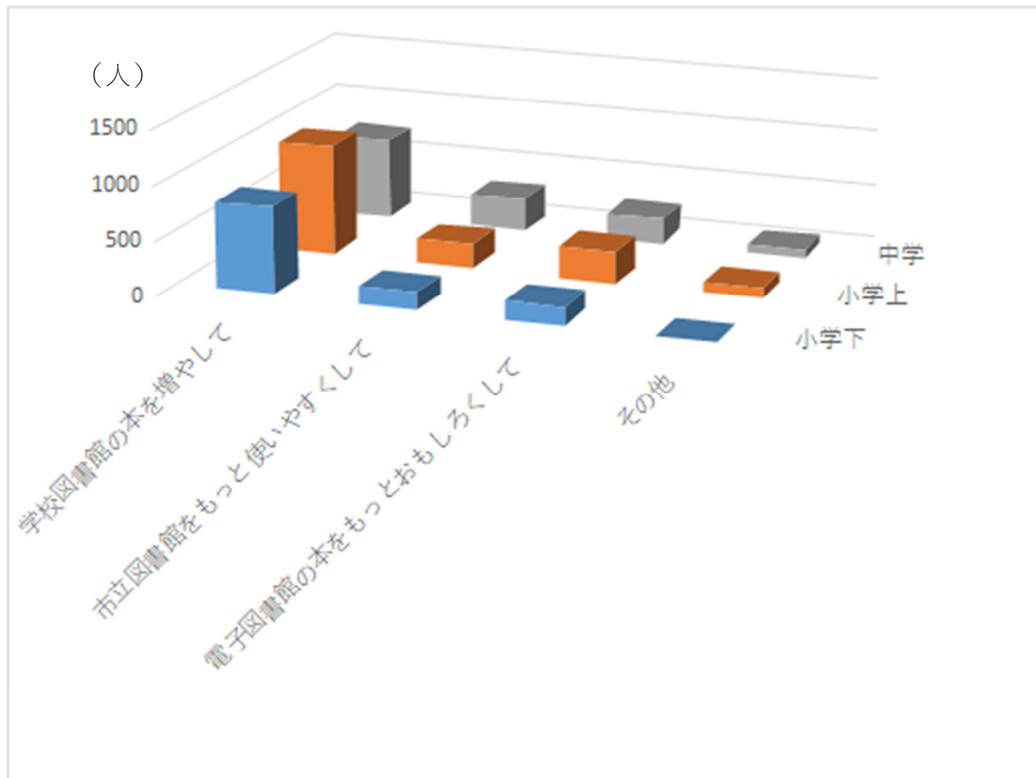


「読書が好き」の割合	小学校下学年	小学校上学年	中学生
宇和島市	84.8%	77.2%	71.0%
愛媛県 (H30 調査)	84.7%	87.3%	83.0%

「読書が好き」な子どもの割合は、小学校下学年は愛媛県の平均（平成 30 年調査）と同レベルですが、学年を上がるにつれて低下するとともに県平均を下回っており、読書離れが進んでいると言える状況です。

## 5. もっと読書が好きになるためにどうすれば良いか

子どもたちに「もっと読書ができるようにして欲しいこと」を聞いてみました。



一番多かった希望は、全学年を通じて「学校図書館の本を増やす」ことでした。

そのことから、子どもたちにとって最も身近な図書館である学校図書館の充実が、子どもたちに望まれていることがわかります。

## 第3章 子どもの読書活動推進のための取組

第2章の現状と課題を踏まえて、今後の宇和島市における子どもの読書活動を推進するために、学校・家庭・地域において、それぞれ次のとおり具体的な取組を進めてまいります。

### 1. 家庭における取組

#### (1) ファーストブック事業

市（保健福祉部）では、毎月実施している8か月児健康相談時に、絵本の読み聞かせと絵本の贈呈を行っています。絵本の選定等には図書館も協力しており、今後も市長部局と連携してファーストブック事業を推進します。

#### (2) 幼少期から本に親しむきっかけづくりと、家庭での読み聞かせ等の支援

中央図書館では毎週土曜日に、図書館ボランティアによる「おはなし会」を実施しています。吉田町図書館及び津島分館でも定期的に読み聞かせを実施しており、親子等で参加することで幼少期から本に親しむ機会を創るとともに、絵本の貸出等を通じて、家庭での読み聞かせ等につながるような支援を行います。



〈おはなし会『こ・あ・ら』〉

#### (3) 長期休みに親子で楽しめるイベントを実施

夏休みや冬休みには、図書館において「ちょっとこわ〜い話」や「クリスマスおはなし会」など親子で楽しめるイベントを実施して、家庭での読書の楽しみが増えるような取組を行います。



〈夏休み『ちょっとこわ〜い話』〉



〈クリスマスおはなし会〉

## 2. 学校における取組

### (1) 朝読書

市内小・中学校において、朝読書をする時間を設けて取り組んでいます。自分で選んだ本を読む時間もあれば、地域の方が読み聞かせに来て、楽しんで話を聞く時間もあります。朝読書の実施により、落ち着いて学習に取り組み、語彙力や表現力等の向上につながる読書活動を目指します。



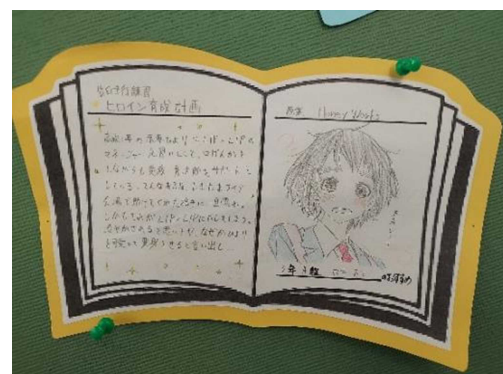
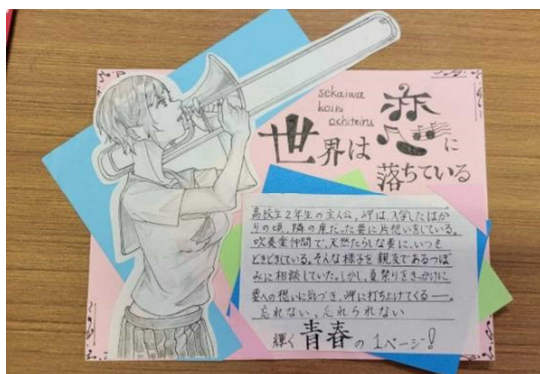
〈朝読書〉



〈地域の方による読み聞かせ〉

### (2) 図書委員会の取組（本の紹介、ポップづくり、読書集会等）

小・中学校において、図書委員会の児童や生徒が主体となり、様々な取組を行っています。その取組をきっかけに子どもの読書意欲の向上を目指し、本の世界に浸ったり、想像を広げながら楽しんで読書したりすることを推進します。



### 3. 地域における取組

#### (1) 市立図書館

- ① 図書館ボランティアと協力して、子どもに本を読む楽しさを伝えます。

中央図書館の「こ・あ・ら」、吉田町図書館の「おやゆびひめの会」、津島分館の「やまももの会」など読み聞かせグループの他にも、布絵本制作の「つく・く・し」など、図書館にはさまざまなボランティアグループの協力をいただいています。今後も図書館ボランティアと協力して、幼少期から本の楽しさに触れる機会を共に創ります。

〈布絵本〉



また、パネルシアターやエプロンシアターなど、あらたな読み聞かせの普及啓発に取り組むとともに、ボランティアの育成に努めます。

〈パネルシアター〉



- ② 出前「おはなし会」や「ブックトーク会」の実施

図書館が地域に出向いていって行う出前「おはなし会」や「ブックトーク会」など新たな取り組みを、今後地域とともに進めていきます。

実施にあたっては、地域のボランティアと協力しながら、地域におけるボランティアの育成も図ってまいります。

③ 電子図書館で、読む楽しみの選択肢を広げます。

アンケート調査では、小学校上学年に上がるにつれて本を読む機会が減少しています。市立図書館の利用についても同様で、特に中学生になると部活動等の影響でさらに読書離れが進む傾向にあります。

児童生徒一人一台端末が定着したことにより、時間や場所に制約されることなく図書館の本が読める電子図書館を普及啓発し、紙の本以外の選択肢として新たな読書スタイルを提供することで、紙でも電子でも読むことの楽しみを伝え広げます。



(2) 公民館

市内に 30 館ある地区公民館には、図書室が整備された公民館、ロビーや会議室の一角に図書コーナーがある公民館など、環境は様々です。

公民館の特性に応じて巡回配本を行うなど、子どもが公民館に本を読みに来る、または居場所として読書できる環境を整備します。



〈公民館図書コーナー〉

(3) 放課後児童クラブ・放課後子ども教室

放課後を安全・安心に過ごすための放課後児童クラブや、放課後等を活用して子どもが様々な体験や学習活動を行う放課後子ども教室において、学習活動や居場所として読書に親しめる環境を整備するため、団体貸出制度を周知、活用に努めます。



〈放課後子ども教室〉

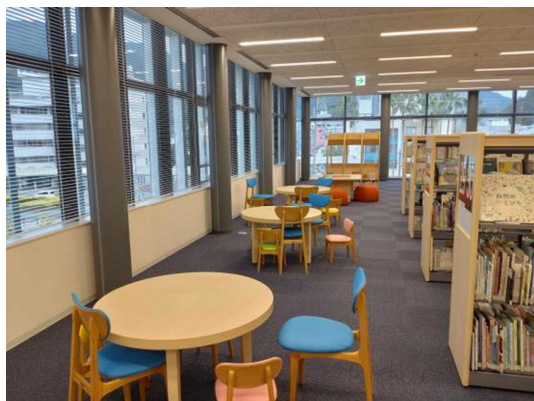
## 第4章 推進するための環境整備

アンケート結果を踏まえて、今後子ども読書活動を推進するために、市立図書館・学校図書館それぞれにおいて、または相互に連携協力して、環境整備を進めてまいります。

### 1. 市立図書館の充実

#### (1) 幼少期から本に親しめるよう、親子で読書できる環境整備

パフィオうわじまの中央図書館では、親子と一緒に本を読めるフロアやねころびコーナーなどを設けています。今後、さらに利用しやすい環境作りに努めるとともに、他の図書館も同様に、幼少期から本に親しめるよう環境整備を進めます。



<児童書フロア>



<ねころびコーナー>

#### (2) 児童書の充実

アンケート調査では、市立図書館を利用しない理由として「読みたい本がない」という回答が30%ありました。

令和4年度末において児童書は約89,000冊で全蔵書の26%です。一方、小中学生の利用が多い電子書籍については41%を児童書で占めています。

今後、紙の図書においても児童書の充実を図ることで、子どもたちが市立図書館の本にも魅力を感じてもらえることを目指すとともに、子ども関連の特設コーナーを充実させることで子どもの読書意欲の喚起を図ります。



<児童書架(SDGs表示)>

### (3) 電子書籍の充実

電子図書館の令和4年度の利用実績では、貸出総数 29,835 冊のうち小学生が 24,833 冊で 83%を占めています。

一人一台端末の普及により、今後ますます子どもによる電子図書館の利用は進んでいくものと考えられることから、宇和島市電子図書館としましても、さらなる児童書電子書籍の充実を図るとともに、シビックプライドを醸成するため、地域資料の電子書籍化を進めてまいります。

### (4) 利用環境の充実

市立図書館を利用しない理由として次に多かったのが「図書館が遠い」という理由で、28%ありました。令和5年時点において、宇和島市図書館設置条例に定める図書館は中央図書館、簡野道明記念吉田町図書館及び中央図書館津島分館の3館です。三間地区においては、三間公民館図書室がその役割を果たしています。

いずれの館においても、どこの館の本でも取り寄せでき、またどこの館からでも返却できるよう相互に連携していますが、そのことを子どもたちにもっと知ってもらうよう図書館見学など受け入れるとともに、距離的格差を解消し、さらに利便性が向上するための利用環境の充実を図ってまいります。



〈図書館見学の様子〉



## 2. 学校図書館の充実

### (1) 図書の購入（毎年）

毎年、各学校において新刊図書を購入し、さまざまなジャンルの本に触れる機会を作っています。また、学校によっては「新刊コーナー」等を設け、普段はあまり読書に興味がない子どもでも、学校図書館に借りに行く機会を作っています。

今後も、子どもたちがさまざまなジャンルの本と触れ合う中で、読書の楽しさを感じ、自主的に読書をすることができる環境を進めます。



<下学年用 新刊図書>



<上学年用 新刊図書>

### (2) みきゃん通帳の活用

各学校において、みきゃん通帳を活用しています。これまでに、どんな本を読んだのか本の題名等を記録することで、通帳に貯まっていきます。令和5年度からは、児童生徒一人一台端末にある愛媛県独自に作っている「E I L S（エイリス）」で使うことができるようになりました。そのため、本のバーコードを読み取ることで題名や著者名等が登録され、読み終わったら感想を入力することが可能です。感想は県内の小学校と共有することができます。



<みきゃん通帳に入力>

オレは、センセーなんかじゃない! (9784052048647) おかざきさとこ 著,くじょう 絵	208	★★★★★	2023/06/12
33歳の優太郎さんは、センセーになってすごいと思いました。いっぱいこの本を読んで感心しました。			
ルルとララのきらきらゼリー: Maple Street (9784265062638) あんびるやすこ 作・絵	71	★★★★★	2023/05/09
わたしもキラキラゼリーを作ってみたくまりました。ダイヤモンドなど、サファイアが素敵でした。			

<みきゃん通帳への入力内容>

### 3. 市立図書館、学校等との連携・協力

---

#### (1) 市立図書館の巡回配本による学校図書館等の充実

市立図書館の本を学校等に定期的に巡回配本を行っています。図書館の本を学校等に配置することで、普段見ない本に触れ、あらたな読書意欲を喚起します。学校図書館等の充実を図るとともに、子どもたちの学校での読書活動が推進するよう、学校等との連携・協力を進めます。

#### (2) 図書館利用者カードをすべての子どもが持てるようにします。

市内全小学校で入学時に図書館利用者カードを贈呈しています。入学前から保護者により既に持っている児童もあり、重複を避けるため、これまでは希望者を対象としてきました。そのため、アンケートのとおり、図書館を利用していない理由に「カードを持っていない」という子どもが一定数あり、全員に行き渡っていないという現状を生んでいます。

全員がカードを持つことで、図書館に来なくても借りられる電子図書館の利用促進や、学校でも電子書籍が教材として使えるなどメリットも多いことから、今後は全員に交付できるよう方法を検討してまいります。

#### (3) 子どもの読書活動を推進するための体制づくり

図書館には図書館協議会があり、市民全体の読書推進や図書館奉仕について意見交換しています。図書館協議会委員には学校関係者や家庭教育関係者も入っており、今後、本計画を基に進捗確認や見直しを行いながら、子どもの読書活動の推進を図ってまいります。

## 第5章 子どもの読書活動の普及・啓発

子どもの読書活動を推進するために、次のとおり、周知啓発活動を継続しながら、折々にイベント等を実施して、子どもたちの読書に関する意欲を喚起することで、読書活動の普及・啓発を進めてまいります。

### (1) 児童生徒一人一台端末を活用した周知啓発

現在、学校から配布されているタブレット端末のデスクトップに、電子図書館のショートカットを置いて、電子書籍を利用しやすい環境を作っています。

今後も、市立図書館のショートカットを置いて児童書を中心に紙の本についても情報発信するなど、学校と協力して、タブレット端末を活用した周知啓発を図ります。

### (2) 「子ども読書の日」における読書活動推進の啓発

現在、4月23日の「子ども読書の日」にちなんで、市内全小学校の新入学生を対象に、希望者に図書館利用者カードを贈呈しています。

今後は、全員に行き渡るような方法を検討するとともに、「子ども読書の日」にちなんだ事業を企画し、意識の啓発を図ります。

### (3) イベント等を通じて読書活動の裾野をひろげる活動

「夏休み子ども読書マラソン」や「図書館探検ツアー」、または冬休みの「クリスマスおはなし会」など長期休みに実施する図書館イベントは、参加者からは好評をいただいております。

リピーターも多く、人気イベントではありますが、一部の読書好きに留まることなく、裾野を広げていくため、ブックトークなど新たな取り組みにもチャレンジしてまいります。

### (4) メディアを通じた普及・啓発活動

図書館からの情報発信を、ホームページ・SNS等インターネットを介した方法のほか、広報誌やUCAT等さまざまなメディアを活用して、子どもの読書活動の普及・啓発に努めます。